

しながら、どの版に相当するのか推理し、参加者からは、その緻密さにため息がもれるほどであった。

最後に、最近、東田氏の受けた質問を紹介しながら、こうした古典の原書については、とくに版の指定の必要ながことが強調された。

## 《シンポジウム》

### 学術情報システムと ローカル目録システム

11月17日(木)～18日(金)の両日、緑深い北摂の山懐にある関西地区大学セミナーハウスで第2回国立大学図書館協議会シンポジウムが定員30名を超える35名(35大学)の参加を得て開催された。今回のシンポジウムでは、メインテーマを「学術情報システムに対応した最適のローカル(各大学図書館)システムは何か」とし、以下の4つのサブテーマごとに検討を加え、特にV T S S方式により学術情報センターと接続し、目録情報の作成、O P A C (Online Public Access Catalog)を推進していこうとしている中小規模の大学図書館システムの在り方を探求することに主眼がおかれた。先ず最初に、今年6月に出された国立大学図書館協議会 学術情報システム特別委員会ネットワーク委員会第2次報告「目録情報ネットワークの展開と大学図書館のシステム化」の概要について報告が行われ、引続き、サブテーマごとに2日間にわたる熱心な討議が行われた。各サブテーマにおける討議概要は次のとおりである。

#### サブテーマ1：学術情報センター目録・ソフトウェア(U I P)

学術情報センターへの登録とデータ取込みまでの取込み方法等ソフトウェアの特徴等について、各メーカーのコンピュータを導入している大学からの事例報告を中心に比較検討が行われた。

#### サブテーマ2：学術情報センター目録情報とローカルシステム目録情報

ローカルシステムに取込む情報量(必要な項

目と不必要な項目の切り分け)及びパッケージソフトの有効利用の必要性等について討議が行われた。

#### サブテーマ3：O P A Cの性能

①NACSIS-IRとの関係におけるO P A Cの必要性

②CD-ROMによるオンディスク検索との関係

③O P A Cのシステム効率等について活発な意見交換が行われた。

#### サブテーマ4：ハウスキーピング

システムの範囲、効率、システムへの負荷を考慮に入れ、ハウスキーピングのシステム化の現状及び問題点(課題)について検討が行われた。

以上のように今回のシンポジウムは、昨年(第1回)の経験を踏まえて、①テーマを1つにしほったこと。(テーマに関して専門の人が参加し得た)②合宿方式を採ったこと(参加者間のコミュニケーションの機会が増えた)等により、終始和やかなうちにも活発な議論が交わされ、実りの多いシンポジウムであった。

## 《懇談会》

### 情報検索・電子メールシステム に関する利用者との懇談会

学術情報センターは、情報検索システムと電子メールシステムの改善とサービスの向上を図るため、全国4地区で利用者との懇談会を開催した。

このうち、近畿地区では、12月8日に本学図書館の地域共同利用室を会場として行われ、9大学から22名の参加があった。

当日、学術情報センターから、各サービスの現状紹介、実演、利用者の意見・要望について報告の後、懇談にはいり、情報検索サービス(NACSIS-IR)及び電子メールシステム(NACSIS-MAIL)の諸機能・性能、データベースの内容、運用等について話し合われ、活発な意見交換がなされた。